



ふとうふくつひのひと

# 不撓不屈の人

〜高保己一没後200周年記念大会〜

## 第15回 高保己一賞

### 表彰式・記念イベント開催

12月18日、本庄市民文化会館で第15回高保己一賞表彰式・記念イベントが行われました。

今回は大賞を田中章治氏が、奨励賞を伊藤丈人氏、小久保寛太氏、貢献賞を堺正一氏が受賞し、表彰状と記念品が贈られました。

高保己一賞は、高保己一の精神を受け継ぎ、障害がありながらも、不屈の努力を続け、社会的に顕著な活躍をしている方や、障害者のために貢献をしている方・団体に贈られています。

#### 高保己一賞表彰内容

**大賞**：社会的に顕著な活躍をしてきた障害のある個人  
**奨励賞**：今後さらに社会的な活躍が期待される45歳未満の障害のある個人  
**貢献賞**：社会的に顕著な障害者支援活動等を行った個人・団体



▲受賞者は前列左から堺正一氏、田中章治氏、伊藤丈人氏、小久保寛太氏

▶大賞を受賞した田中章治氏は、視覚障害者の読書環境向上に尽力。さらに、国家公務員試験の点字試験実施や視覚障害者が持てる能力を発揮して働くための職場介助者制度の実現などに貢献した



高保己一没後200周年記念企画「不撓不屈の人」。今回は、12月に開催された第15回高保己一賞表彰式・記念イベントの様子や寄贈品などを紹介します。

記念イベントでは、渋沢栄一アンドロイドによる式辞の再現や、東京大学史料編纂所教授で文学博士の本郷和人氏による講演「日本の歴史に見る高保己一の貢献」、ゴールボールパラアスリートによる実技披露、子ども群読劇「高保己一物語」の上演が行われました。



▲ロンドンパラ金メダリストの安達阿記子選手による迫力あるシュート。視界が遮られた状態での実技披露に会場から驚きの声が上がった



▲講演の中で本郷氏は「高保己一は、和学にいち早く目覚めた人物でもあり、日本の歴史を明らかにしようとするその熱意が日本史の基礎になっている」と話した  
 ▶昭和2年に温故学会開館式で披露された式辞を渋沢栄一アンドロイドが再現して講演  
 協力：深谷市・渋沢栄一記念館

◀子ども群読劇は、練習や発表の場を重ね、現在のメンバーでの最後の公演となった。参加した子どもたちは、自分以外の出演者のせりふも覚えてしまうほど練習を重ねたという



### 学んだ技術で製作 木製オブジェ・ペーパーウエイトを寄贈

児玉白楊高校機械科の3年生8名が製作した木製オブジェと真鍮製のペーパーウエイトが寄贈されました。木製オブジェは、高保己一の肖像画が描かれており、描く画像を数値化（座標値）し、プログラムを組みながら、緻密な作業工程を経て2年間かけて製作しました。

ペーパーウエイトの表面には「世のため後のため」と刻まれており、高保己一賞受賞者へ記念品として贈られたほか、市内小中学校へ贈られました。



木製オブジェは高保己一賞表彰式会場にも展示された